



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和2年12月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数370人

一人一台のPC

校長 清水 励

校庭の芝生もすっかり茶色くなり、休眠の冬支度に入りつつあります。保護者の皆様におかれましては、鴻巣市陸上競技場で行いました「持久走大会」に、多くの方々の御来場と子供たちへの温かい御声援をいただき、ありがとうございました。今年の持久走大会は、子供たちの運動不足をやや心配しての実施でしたが、子供たちは事前の練習からとても前向きに取り組み、各自が目標としていた記録や順位を目指して一生懸命に走ることができました。

さて、鴻巣市では「児童一人一台のPC貸与」を含めた、学校のICT環境整備を進めております。先月（11月）より機器搬入や環境整備等が始まり、令和3年4月以降の活用開始を予定しております。本校はパイロット校として実践検証等を行うため、令和3年1月末より整備されたICT機器を活用しての教育活動に取り組む予定でいます。



【児童用PC】
Dell Latitude 3190 Education 2-in-1

「教育の情報化」の必要性や有効性は、かなり以前から唱えられていましたが、各市町村の財政的な理由や学校現場からのニーズの温度差等もあり、学校の大規模なICT環境整備を行うことは、なかなか難しい状況でした。OECD諸国と比べると、日本の学校現場でのICT活用は著しく遅れており、「極めて後進国」となっています。時には、医学や科学などが日々進んでいく中、旧態依然とした学校の授業については、「教科書と黒板にノートと鉛筆。50年前の教師が、今の教室に来て、同じように教師ができる。」などと批判されることもありました。

新型コロナウイルス感染症に対応するための「学びの保障」という予期せぬ追い風から急ピッチに進められたICT環境整備ですが、本来のねらいは「**新しい時代で活躍するために必要な資質・能力の育成**」にあります。鴻巣市の考え方である「**ICT機器を文房具のように活用しよう!**」という姿を目指し、先生方と子供たちが無理なく「ICTを当たり前」の道具として活用できるよう、計画的・段階的に学習ツールとしての活用推進を図ってまいりたいと思います。

もちろん、授業の質を高める中核となるのはICTなどのテクノロジーではなく、授業を行う教師自身の資質を含めた指導力です。そして、新たなテクノロジー等に限らず、「子供たちの学びをさらに豊かにできるもの」を、常に一生懸命に追い求めることのできる教師こそが、子供たちにとって最大・最良の教育環境であると考えております。（手前味噌ですが…、本校は、新しいものに対して前向きに楽しみながら、そして、協働の精神を大切にしながら取り組むことができる教職員ばかりです!）

児童各自に貸与するPCは、原則、学校保管とする予定ですが、家庭で行ってほしい課題等がある時には、家庭への持ち帰りも想定しております（PCは約1.5kg）。行う課題によっては、各御家庭のインターネット環境への接続をお願いすることがあるかもしれませんが、その際には可能な範囲での御協力をお願いいたします。また、「インターネット利用の約束」（懇談会で配布済み）を各御家庭で今一度御確認いただき、安全・安心な利活用に御協力をお願いいたします。